



## 就任3年目を迎えて

秋田県高等学校野球連盟  
会長 尾形 徳昭

4月22日（金）に開催致しました、今年度第1回評議員・理事会で会長に再任され、就任3年目を迎えました。コロナ禍にあり、難しい判断を短時間で行わなければならない事態も想定されますが、副会長、理事長以下、留任された役員、新しい役員の皆様とともに知恵を絞り、力を合わせて、高校球児の為、そして応援して下さる皆様の為、微力ではありますが、精一杯頑張っておりますので、どうかよろしくお願いたします。

さて、秋田県の高校野球ですが、今年度は大きな改革の年であります。先日の報道にもありましたが、秋田県は人口の減少率が日本一であります。少子化に伴う高等学校の統廃合が進む中、全県の野球部員も減少しております。これらの影響から、県北、中央、県南の各地区の加盟校に不均衡が生じ、県大会出場枠の問題が発生したことから、今年度からは春と秋の地区大会を廃止し、2回の県大会と、夏の甲子園予選が主たる大会となります。

また、連日世間を賑わしている新型コロナウイルスの影響は、高校野球にも大きな打撃を与えております。2年前から、大会はほとんどを無観客の状況で開催して参りました。高野連の財源は観客の皆様からいただく入場料ですので、無観客では、大会の度に支出増の状況が続いて参りました。東日本大震災以来積み立てて参りました非常時積立金も底をつく状況となり、そこでやむを得ず、今年度からは一般の方々の入場料の値上げと満70歳以上の方々に行っておりましたフリーパス券の販売を中止することといたしました。

最初のうちは抵抗があるかも知れませんが、いただいた入場料は各球場の借用料や選手が使うボール等に当てられていることを丁寧に説明しながら、御理解と御協力が得られるよう頑張っております。

最初から寂しい話をしているようですが、全てはあこがれの甲子園を目指してコロナと戦いながら、日夜練習を重ねている高校球児の健全育成の為と考え、頑張っておりますので、今後ともどうかよろしくお願いたします。いずれ彼らは奇跡を起こし、我々や応援して下さる皆様に、きっと感動を与えてくれることでしょう。

先日の評議員・理事会の冒頭、御来賓の方々の挨拶の中で、松村朝日新聞秋田総局長様は、センバツ準決勝の浦和学院対近江の試合から、2つお話しくださいました。1つめは、浦学の左翼手が近江の打者の打球を好捕した際、安打性の打球を好捕された打者走者が、悔しさをこらえながら、ダイビングキャッチのファインプレーをした相手左翼手に拍手を送っていたこと。そして延長12回、サヨナラスリーランを打たれて負けてしまった浦学の捕手が、打者のバットを拾い上げて近江の選手に笑顔で渡してあげたこと。いずれも感動的で、高校野球らしい爽やかなエピソードで胸が熱くなりました。

また、秋田魁新報社の平野報道センター運動部長様は、広陵対敦賀気比戦で起こった、審判団の誤審について話されました。誤審を認めて謝罪し、さらには誤審が無かった場合の場面を想定し、そこから試合を再開した審判団の英断に、高校野球が教育の一環であるという理念を感じられた話に、これまた高校野球の奥深さと素晴らしさを感じました。

間もなく、今年度初の試みである、全加盟校による春の県大会が始まります。選手たちの緊張感も高まってきていることとは思いますが、我々大会を運営する連盟役員も緊張して参りました。安全で安心できる環境のもと、筋書きのない感動的なドラマを、連盟役員一同、精一杯支えて参りますので、今年度も御理解と御協力をよろしくお願いたします。

2022年5月